

平成 30 年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 最優秀賞
(国土交通大臣賞)

「合言葉は「命を守る」」

宮城県 石巻市立渡波小学校 5年 千葉 美遼

今年の7月6日から8日にかけて、「大雨特別警報」が九州地方や中国地方などの11府県に発表されました。

私が印象に残った光景は、広島県で起きた土石流です。ニュースで流れた映像には、大きな岩や木を巻き込んだ土石流が、そこに暮らしていた誰かの大切な思い出のつまった家々を、めちゃくちゃに、泥まみれにして押し流す様子が映っていました。それは、私が幼いころに経験した東日本大震災の光景に似ていました。

今回の集中豪雨では、東日本大震災のように、数え切れないほど多くの人が被害にあい、多くの命が奪われてしまいました。私たちの暮らす宮城県でも、雨が激しく降ることがありますが、これほどにも被害が大きくなるとは考えたこともありません。私は、今回の災害をきっかけに土砂災害について調べ、被害を少しでも防ぐために自分にできることについて考えようと思いました。

被災地について調べてみると、被害の大きかった広島県の土は「まさ土」という水を含むと非常にもろくなる性質の土で、大雨による大量の水を含んだことで土石流が発生したそうです。そのような地域では本来、土石流から人々を守るために砂防ダムなどの設備が備えられていますが、今回の大雨では、砂防ダムが決壊したり、砂防ダムを超えるほどの土石流が流れたりしたことによって、大きな被害となったということでした。人々の暮らしを守るための設備がそこにあったとしても、自然の力は、時にそれを超えてしまうほど大きなものであるのだと気付きました。

土砂災害の起きた地域では、放送で避難をするように指示が出されていたそうですが、避難をしなかったり、逃げ遅れたりした人も多かったそうです。これは、災害時に（自分は大丈夫だろう）（そんなに大きな被害にはならない）という思い込みをしてしまう「正常性バイアス」という作用が働いたと見られ、東日本大震災の際にも、津波が目に見えるまで自宅に残っていたり、家に大切なものをとりに戻ったりして、多くの人が津波に飲み込まれてしまった原因の1つとなりました。もし、私が同じ立場だったとしても、大雨の中で避難の判断をするのは難しいと思います。暗い夜、大雨が降る中での移動は危険だと感じるし、普段から暮らしている家に家族と一緒にいるほうが安心できるからです。しかし、今回の土砂災害から、命を守るための正しい行動をいち早くとることが大切だと学びました。

「大雨特別警報」について正しく理解されていなかったことも、被害の広がった原因の1つだと思います。数十年に1度の降雨量となる大雨、台風、温帯低気圧が予想される場合に発表されるもので、2013年から使用されているそうですが、被災者の内のどれ程の人がその言葉から被害の大きさを予想できたでしょうか。

災害から命を守るためには情報を集める力も大切です。災害時には正しい判断が難しくなりますが、テレビやインターネットで情報を集めることや、地域の人たちで相談したり、声を掛け合ったりすることで、より安全なうちに行動することができるようになります。災害に備えて、地域や家族でルールを決めておくことも、いざという時に、慌てず落ち着いて行動することに役立つと私は考えました。

私が住む家のすぐ後ろには、垂水山という山があります。石巻市のハザードマップを調べると、垂水山は崖崩れ特別警戒区域となっていることが分かりました。すぐに、土砂災害が起こりそうなときにはどうするのかを家族で話し合いましたが、市の情報を確かめながら、早めの行動をとることを家族のみんな決めました。

今回起きた豪雨による災害も、東日本大震災にも共通することは、災害は突然に起こるものだという事です。しかし、災害に関する情報を集めたり、災害時の行動について話し合ったりすることで、被害を抑えたり、大切な命を守ったりすることができるかもしれません。「命を守る」を合

平成 30 年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 最優秀賞
(国土交通大臣賞)

言葉に、よく考え、落ち着いて行動することができるよう、これからも私は災害に備えていきます。
。